

令和元年度 第2回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和元年度 第2回下野市小中一貫教育推進協議会
日 時 令和2年3月17日(火) 午後3時00分～午後4時55分
会 場 下野市役所 3階 教育委員会室
出席者 小野瀬善行 委員、大塩宗里 委員、倉井典子 委員、阿嶋敬一 委員、
青木浩美 委員、隅内 宏 委員、永山一夫 委員、五十嵐早苗 委員、
伊沢幸子 委員、熊谷正臣 委員、渡邊欣宥 委員
【欠席委員】小林幸代 委員、舘野 勝 委員、小谷光子 委員、宮下明枝 委員
市側出席者 (事務局) 田澤孝一 学校教育課長、星野友保 学校教育課課長補佐兼指導主事、
森口哲二 同課主幹、稲葉亜希恵 同課主幹兼指導主事、上野保久 同課小中一
貫教育統括コーディネーター
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
傍聴人 0人
議事録(概要) 作成年月日 令和2年3月18日

1 開会(田澤課長)

2 会長あいさつ(小野瀬会長)

皆さんこんにちは。協議会の冒頭に当たりまして、ご挨拶申し上げます。年度末のお忙しい中、そしてご案内の通り、新型コロナウイルス感染症対応でお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。一部再開という報道もございますが、全国の公立小中高校のおよそ99%がお休みの中、小中一貫教育を考えることの意義は、違った意味で求められているのかなと思います。学校が休校ということで、地域の教育力が試されていると思います。我が家には5歳の息子がいるのですが、息子の幼稚園は自主登園という形になりました。家庭で判断してくださいということで、我が家では休ませました。今は登園させるタイミングに苦慮しています。どこにも正解がない中で、子どもたちの安心・安全を守っていくことについて、先生方も対応してくださっているところだろうと思います。一方で、未知のウイルスであり、台風であったり地震であったり、本当に、学校が1ヶ月単位、2ヶ月単位で、休校せざるをえないということが、今後も多くあるのではないかとすることを予測する次第です。そうしますと、休校によって学習できなかった部分について、市町村単位で子どもたちの学力をどのように保証していくのかということが、まさに問われているのかなと思います。そういう意味で、小中一貫教育について話し合いを進め、学校でどういうことができるのか、地域でどういうことができるのかを考えることは、非常に時宜を得たものであると思います。4月からの見通しもなかなか難しい中での話し合いではありますが、今回は2019年度の実施事項、報告をもとに、委員の皆様方から幅広いご意見等をいただいて、2020年度の計画を確認していただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 各中学校区における取組について

(小野瀬会長) 議事の(1)各中学校区の取組につきまして、各中学校区の代表の校長先生方から、資料順にご説明をお願いします。

〔資料：令和元年度～令和２年度 下野市小中一貫教育グランドデザイン
及び各部会の取組について説明〕

- (倉井委員) 南河内中学校区の説明
- (阿嶋委員) 南河内第二中学校区の説明
- (青木委員) 石橋中学校区の説明
- (隅内委員) 国分寺中学校区の説明
- (小野瀬会長) それでは他の委員の皆様から、質問あるいはご意見をお願いします。
- (伊沢委員) せっかく小中一貫でやっているの、子どもたちの得意分野を見つけて欲しいと思います。子どもたちは、好きなこととかやりたいものがあると思うので、これから社会に出て行く上で、それが職業になって欲しいと思っています。好きな、また、得意分野があったら、「あなたはここがすごいんだから、もっとやれるのではないか」ということが言えると思うのですが、ただ、皆が同じレベルに合わせるという勉強法では個人が伸びないと思うので、ぜひ、将来の夢ややりたいものを描かせて、それが実現できるように、見て欲しいというのが、今まで仕事で子どもたちを見てきた私の思いです。社会に出るときに、やりたい職業、自分の好きな職業というものに就くことができれば、途中で辞めることはないと思います。小学校、中学校の間に、特に中学生は高校を選ぶ段階で、必要かと思います。ぜひ子どもたちの夢を大切に、また日が経つと変わるということもあると思うので、たまに、今思っている夢を書いてくださいとか聞いてあげるとよいと思います。そうすると、それに向かって何をしたらいいかと本人が考えると思います。ぜひ、子どもたちの得意分野を先生たちが、見ていてほしいと思います。よろしくをお願いします。
- (小野瀬会長) ありがとうございます。まさに小中一貫教育9年間の中で、子どもたちの成績のみならず、子どもたちの得意分野や将来の夢に先生方が継続して寄り添うということの大切さ、意義ということをお伊沢委員からご発言いただきました。今のご発言に関して、考えられる取組、あるいは、実際の取組があれば、学校関係の4名の委員からご発言、補足等をお願いします。
- (阿嶋委員) 来年度の4月からキャリアパスポートという制度が導入されます。全ての小中学校でやるのですが、小学校1年生の時から、将来の夢や将来の就きたい職業についての考えを蓄積していくという、ポートフォリオ形式のやり方です。小学校1年生から、中学校、高校まで、1つのファイリングで、子どもたちの夢や希望が繋がっていくという学習が4月から導入されるということなので、非常に期待しています。
- (伊沢委員) よかったです。
- (小野瀬会長) そう、まさに子どもたちの学びが蓄積していくということが、国の方針として行われるんですね。ありがとうございました。
- (熊谷委員) 石橋中学校区の実践研究で「心の教育」とありますが、心というものはなかなか目に見えないものですから、それを9年間通して育てるということはかなり難しいと思います。子どもたちの心の育ちというものを、どのように次の先生に引き継ぐか、また、申し送るかを教えて欲しいと思います。
- (青木委員) なかなか形にはできないのですが、小学校は昨年度から、中学校は本年度か

ら道徳が教科になりました。道徳の授業だけでなく、自分の夢を描くとか、今の自分を好きであるとか、そういうことについて、今の子どもたちはなかなかうまく描けません。石橋中学校区では、自分の夢をもっていること、自分を好きであることは全ての活力になるだろうと考えて、「心の教育」を実践研究の課題にしました。小中学校でこの実践研究の理念をもとに、各先生方が意識しながら取り組んでいます。例えば、子どもたちの様子をアンケートで調査して、小学校1年生から中学校3年生までの9年間で、子どもたちがどんなふうに成長しているかということを見ていきます。小学校の教員は、小学校の実践だけではなく、中学校の出口の所も想像しながら「心の教育」に携わっていくようにしたいと思います。

(熊谷委員) 自分の夢をもつこと、今の自分が好きということ、これが全ての活力につながるというキーワードで十分わかりました。

(小野瀬会長) ありがとうございます。心の教育について、9年間の評価をどのように共有して先につなげていくかという非常に重要な論点をお示しいただきご発言でした。その子がどういうふうに変容していったのかということ、9年間の尺度でどう追っていったかが確認できる仕組みを考えねばなりません。そのような先生方の心の準備、評価の整備というものが重要であるということがわかりました。

(渡邊委員) 私は、今の子どもたちにコミュニケーション能力の欠如を感じます。どうしても今の教育の中では成績の向上、学力の向上に走りがちになっているところがあると思います。自分の子ども時代と比較すると、先生からの指導だけではなく、生徒間の関係、先輩後輩の関係の中で、社会で生きていく知恵というものを教えてもらいました。これは今の社会情勢にもよるところかもしれないかもしれませんが、そういう関係性がないことが子どもたちの将来の夢が描けないというところにつながっているのではないかと思います。生徒間同士でも、そういう話し合いの場がもてるといいと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。これも重要な指摘だと思います。児童生徒間の交流、小学生、中学生の交流、実際にもう具体的に取り組んでいる状況等ありましたら、ご発言をお願いします。

(阿嶋委員) 学び方について考えると、昔の子どもたちよりも、今の子どもたちの方が遙かにコミュニケーションをとりながら学んでいます。先生が一方通行で教えているという授業は、今はほとんどありません。必ず子ども同士でも話し合いながら、課題を解決したりします。主体的、対話的で深い学びというのはそういうことであって、多様な考えの中で、何を最適な解にしていくかということを探りながら、子どもたちは、コンピュータを使ったりとか、いろいろ調べたり、お互い話し合ったりという方法で課題を解決していきます。そういう意味では、今の子どもたちは、課題解決のためのコミュニケーション能力というのは高まっています。

(渡邊委員) 確かに、言われていることは、授業参観をするとよくわかります。我々の学生の時の授業は、先生の言うことを黙って聞いているという授業でした。よい学びが行われているのですね。

(阿嶋委員) しかし、それでも子ども同士のコミュニケーションがとれないでトラブル

になることもあります。小学校の時から、先ほど熊谷委員が言ったように、心を育てながらやっていく必要を大いに感じます。

(渡邊委員) 小中の児童生徒と一緒に交流することは、本当に低学年の子どもたちにとっては嬉しいことだし、また、高学年の子どもたちは、下級生に教えられるということで意欲の向上につながると思います。今の学び方をどんどん続けていって欲しいと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。異年齢の交流も含めて、学校教育の中でどう対応していくかということのご指摘だったと思います。他にいかがでしょうか。

(五十嵐委員) 4中学校区の活動の内容を見させていただき、そのすばらしい取組に、本当に地域の者として安心したところです。意見というより、改めてある話をシェアしたいと思います。学校の先生になりたいという夢をもっていた女性が、家庭の経済的な事情でその夢を実現させるための進路がとれずにあきらめていました。中学校の時の先生にそのことを相談すると、「外国人のための日本語学校がある。そこで先生になったらどう？」というアドバイスを受けました。現在、その仕事をしているということでした。その女性にとって、一番わかってくれていた先生に相談したことがよかったのだと思います。小中一貫教育で9年間見ていただける、ましてや、来年から始まるキャリアパスポートがあるというのは、今後、子どもたちにとって安心する環境になるのだと感じました。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

(小野瀬会長) ありがとうございます。一人の子どもをよく見てくれた先生がいたこと。その先生に相談したこと。そのすばらしさを再確認しました。他に何かあればお願いします。

(永山委員) 前任校は中高一貫教育を行っている矢板東高校に勤務していました。運動会とか文化祭とか一緒にやるときに、ずいぶん中学校と高校の先生たちが、考え方とか生徒指導方針が違うということで、ぶつかり合ったという経験があります。おそらく小中学校も同じ義務教育でありながら、文化というのが相当違うと感じていると思います。今、話を聞かせていただくと、小中学校でずいぶん連携をとっているのですばらしいと思います。おそらく、今は分離型等でやっているのです、お互いにある程度干渉し合わない部分があつて、うまくいっていると思いますが、これが一体型になると、いろいろな問題が出てくると思います。学習面よりも生活指導面で、指導観が違ってくると思います。分離している良さを生かしたり、一体になる良さを活かしたりすることがうまくできればいいと思います。また、6・3制を4・3・2制にした時に、学校行事などをやる場合に、6・3制であれば小学6年生がリーダーになるべきところで、その機会がなくなると思います。今思えば、中高一貫校の中学校3年生というのは、他の中学校ならばリーダーとして活躍できる場面であったのに、その活躍の場を奪われた学年ではなかったかという気がします。その解消には、行事等をうまく切り分けて、活躍する場面というものを意図的にもたせてやるのが大切だと思いました。県内に中高一貫校は3つありますが、宇都宮東高を除いた学校は生徒集めで相当苦勞しています。中高一貫校のメリットは何かということを問われた場合に、アピールポイントが弱い面がありました。6・3制の学校と、小

中一貫教育で、小学校1年生から中学校3年生までの9年生で上がっていく4・3・2制の学校では、どういうところがメリットなのかということをはっきりと地域の人にわかるように情報発信をしていくことが必要だと思います。分離型にしる、一体型にしる、小中一貫教育のメリットというものをもう一度世の中の人にわかってもらう工夫をした方がいいと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。大変重要な指摘をいただきましたがいかがでしょうか。

(倉井委員) 昨年まで小学校の校長でした。その時に、5・6年生が中学校に向けて自主的に動けるようにしたいという思いでしたが、小学校での6年生は非常に活躍していました。今年度中学校に異動したのですが、中学1年生は自主性があまり目立ちませんでした。このつながりはどうやるのだろうと思いながら現在勤務しています。この4・3・2の区切りはすごくいいと思っていますが、永山委員のお話を聞いていると、確かに、この区切りは6年生が埋もれる恐れがあります。メリットとデメリットがあるのだなと思いました。そこをうまくつなげて6年生も自己有用感が育つように工夫をしていきたいと思っています。何らかの手段はあると思います。例えば、4・3・2の区切りの中でも、2・2・2の区切りでやる活動なども工夫できる部分もあるのではないかと思います。そういう研究もしていくべきであると、今お話を伺って思いました。

(小野瀬会長) ありがとうございます。永山委員のご指摘、リーダーシップの話ですが、私は今、宇都宮東高校の学校評議員をしています。やはり、中学3年生が活躍する場が少ないのではないかとということが話題になりました。いろいろな形でのリーダーシップ、それに向けてのフォロアーシップの発揮の仕方だとか、単に先頭だっただけではなくて、様々な分野や様々な機会でリーダーシップ、フォロアーシップというものを教員が認めてあげることで、自己肯定感が高まっていくのではないかとこの議題が出ていました。非常に重要な指摘だろうと思います。これから下野市はいくつかの異なる型の小中一貫教育が進むわけで、それぞれ、全体的な、また、相対的なメリットを打ち出しながら、それぞれの中学校区のメリットも発信していかなければなりません。そこにある意味、地域差による不公平感が生まれないようにしなければならないということで、非常に難しい状況になると思います。そういう意味ではこの会の情報共有が大事であると思いました。

(大塩委員) 4・3・2の区切りの意見について、確かに、6年生は立場を奪われることもあろうかと思っています。しかし、4の区切りの中で、また、3の区切りの中で、新たなリーダーが出るかと思っています。リーダーになる機会が増える分、その移行時期の6年生はかわいそうだと思います。一貫教育ということについて考えると、今、小中一貫で考えていますが、本来は、幼・小・中・高・大と全部つながっています。子どもの成長や発達段階というものには個々の違いはあるにしても、決して折れ線変化ではあり得ず、必ずなめらかな自然界の変化に則って成長しているというのが私の持論です。あの円グラフを見ていると、今回、発表にあった先生方の意識向上というのは、すばらしい成果を上げていると思います。反面、保護者の理解は、あまり得られてい

ない状況のようです。結局、情報発信の不足かもしれませんし、地域との連携不足があげられると思います。地域との連携がかなり図られた時に、学校と地域がうまくつながって、学校全体の動きもよくなるという、そういう流れです。保護者に情報を発信して地域との連携をつなげるかということとはとても大切です。そういう視点から学校の実践の切り口を考えていくと、この小中一貫教育がうまくいくと思います。その根底にあるのが「心の教育」であると思います。日本の教育はそこが大切であろうと思います。今まで保護者は学校の道徳教育について授業を参観するのみでありましたが、保護者も道徳の学習指導要領を知る必要があるのではないかと思います。それを読み込むと、学校の道徳授業というのはどういうふうに行われているか、そしてそれが次の世代にどういうふう伝わっていくのかということがしっくりわかる気がします。下野市の小中一貫教育というものが、ややもすると、このグランドデザインを作って終わりということになってしまうと、非常に残念です。これからが正念場という感じがします。

(小野瀬会長) ありがとうございます。保護者の方のご協力をいただくために地域の方の参加をどう促していくかということが非常に重要だと思います。今度の学習指導要領は、教職員だけが読めばいいというものではなく、地域の人と共有できるようにということを念頭に作られたものでありますので、小中一貫教育も含めて考える必要があると思います。

(2) 小中一貫教育に関するアンケートについて

(小野瀬会長) 小中一貫教育に関するアンケートについて事務局より説明をお願いします。

(稲葉指導主事) [資料1：小中一貫教育 教職員アンケート結果について説明]

(小野瀬会長) 改めてお気づきの点があればお聞きしたいと思います。

(大塩委員) ②の「乗り入れ授業」というのはどういうものなのですか。

(稲葉指導主事) 教科は何でもいいのですが、例えば中学校の英語の免許をもっている教科担任が、小学校に行って外国語活動の授業を主担当として行うということです。逆に小学校の先生が、免許をもっていて中学校で授業をすることも可能です。

(青木委員) 小学校からも行きましたが、中学校から来てくださっての授業がとてもよかったです。特に中学校の先生が6年生に授業をしたときに、子どもたちも「すごい」と喜んでいました。

(阿嶋委員) 南河内第二中学校区も、中学校の先生が祇園小、緑小に行って理科と数学の授業を行いました。その代わりに、各小学校から1名ずつ来ていただいて、T2で授業を行いました。免許をもっていれば途中からT1でもやることもできます。ただ人数を増やすのは難しく、年間1～2人の乗り入れがやっとです。年間に5人も6人も乗り入れできるかということ、難しいです。よって、②のパーセンテージは今後も上がらないと思います。

(青木委員) 中学校区に小学校が4校あれば、1校1人として年間4人の乗り入れがやっとだと思います。乗り入れ授業は、時間的に厳しいものがあります。

(隅内委員) 当然、事前に打ち合わせが必要になります。そこにかんがりのエネルギーを

使います。乗り入れ授業がいいことであるのは重々わかっているのですが、なかなかできないのが現状でもあります。

(倉井委員) 先生方の苦労とは別に、子どもたちは喜んでいきます。小学生は、中学校の先生の授業が「とてもわかりやすい」と喜んでいました。

(青木委員) 教員側の大変さもあると思いますが、子どもたちの気持ちを考えると、できる範囲でやった方がいいと思います。中学校の先生が小学校の6年生の様子を見てもらうという点でも有効です。児童生徒指導上のメリットもあると思います。

(小野瀬会長) この資料は、先生方に関して行ったアンケートで、今後は保護者であるとか、地域に対しても行うのでしょうか。

(稲葉指導主事) 今のところは教職員と児童生徒のみで経年変化を見ていこうと思います。

(小野瀬会長) P D C Aサイクルを回していく上で、どういうデータをとるのがいいのかということも重要な議論になると思います。

(阿嶋委員) 学校評価の中に小中一貫教育に関する項目を入れるといいと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

(小野瀬会長) 今後の小中一貫教育の推進についてのスケジュール等について、事務局より説明をお願いします。

(田澤課長) [資料：2019～2020年度 下野市小中一貫教育推進計画について説明]

(小野瀬会長) これに関して、ご意見ご質問等あればお願いします。

(4) 意見交換

(小野瀬会長) 改めてお気づきの点やご意見がありましたらお願いします。
今までの話し合いの中で承ったということで進めたいと思います。

(5) その他

(小野瀬会長) 南河内中学校区義務教育学校の校名について、事務局より報告があるということです。事務局、お願いします。

(森口主幹) [資料2：校名検討の経緯について説明]

(小野瀬会長) ただ今の報告につきまして、確認等ありましたらお願いします。

(伊沢委員) 1年生から9年生という呼び方になると、6年生で卒業式はないということですか。それは、9年間で卒業式は9年生のみということですか。

(田澤課長) 義務教育学校はそうなります。小学校課程修了の区切りとして、6年目の区切りに当たる何らかの式は行います。現在各部会で検討中です。

(小野瀬会長) それでは、議事は終了しましたが、改めて何かありますか。
本日の取組やご意見を踏まえまして、各中学校区の先生方には引き続きよろしくをお願いします。また、いろいろな取組につきましても、協議会でも協力できればと思います。

本日の議事は以上になります。